

川崎市議会議員

本間 賢次郎

市政レポート No. 4 (平成 30 年 4 月号)

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17
TEL044-742-8072 FAX044-211-1081

ごあいさつ



平成 30 年度のスタートを前に川崎市議会では 2 月 13 日から 3 月 16 日まで第 1 回定例会を開会し、新年度予算についての審査を活発な議論の下で行い、過去最大規模の 1 兆 4456 億 21 万円の予算を承認・可決致しました。福祉の向上や子育て支援、産業活性化に向けた成長戦略、防災・減災対策が大きな柱となっています。人口も税収も増えてはいますが、山積する課題を前に財政運営は厳しい状況にあることを強く認識し、将来に対して責任ある市政を目指して参ります。

東京オリンピック・パラリンピックに向け、川崎の新たな魅力発信を！

本間 賢次郎は、「予算審査特別委員会」の二日目、3 月 6 日に質問に立ち、東京オリンピック・パラリンピック関連の予算について、行政の取り組みと見解、課題を尋ねました。国内外から多くの観光客が川崎の街に関心を持って頂けるような取り組みの強化を目指して参ります！

◎ホテルシップ誘致の成功へ、川崎港の魅力を高める！

昨年 6 月に国では「クルーズ船のホテルとしての活用に関する分科会」が開かれ、本市はオブザーバー参加致しました。これは、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック期間中の宿泊施設不足を補うため、クルーズ船を長期間、港に停泊させホテルとして活用する取り組みです。最近の夏季五輪、12 年のロンドン、16 年のリオデジャネイロでも導入された実績があり、注目されている事業です。3 月 5 日には第 2 回分科会が開催さ

れ、出入国管理法や関税法などの法令運用の問題点の整理を進め、今後は自治体単位で旅館業法に関連する点や下水処理等についての対応を行います。川崎港には客船専用ターミナルはありませんが、東扇島地区の物流ターミナルを有効に活用し、羽田空港に近い立地を活かしPRをして誘致成功を目指しています。川崎港にホテルシップを誘致できれば、宿泊客をはじめ、客船を一目見ようとする観光客が国内外から川崎に多く訪れることになり、川崎の魅力に触れる機会が増えることが期待されます。

一方で課題も多くあります。まずは、川崎市街地と東扇島地区との往来方法は川崎港海底トンネルを利用する他はなく、アクセス向上と渋滞対策が必要不可欠です。**本間 賢次郎**は市街地側の既存の船乗り場を活用した



海上からのアクセスを検討する必要があるのではないかと考え、意見致しました。さらに、工業港に長期間客船が停留し、港湾関係者以外の人々が多く利用することによる安全面の問題や貨物船や物流への影響の軽減策と合わせ、「川崎港に泊まって良かった」と思ってもらえる付加価値についても重要と捉えています。東扇島地区には、

BBQ 施設や京浜工業地帯を見渡せる展望室のある川崎マリエンや人工海浜（かわさきの浜）の東扇島東公園、釣りスポットとして人気のある西公園があり、工夫次第で訪れた方々に楽しんで頂けるポテンシャルがあるので、施設や周辺道路の整備を進め、賑わいの創出を図るよう提言し、東京五輪を契機に多くの人々に川崎港への親しみを持って頂けるよう、今後も取り組んで参ります。

また、川崎港に限らず、街の中にも多くの魅力がありますので、川崎に立ち寄った方々がいつでも楽しみを新発見できる観光事業の促進によって地域の活性化を目指して参ります。